



関東森林学会ニュースレター

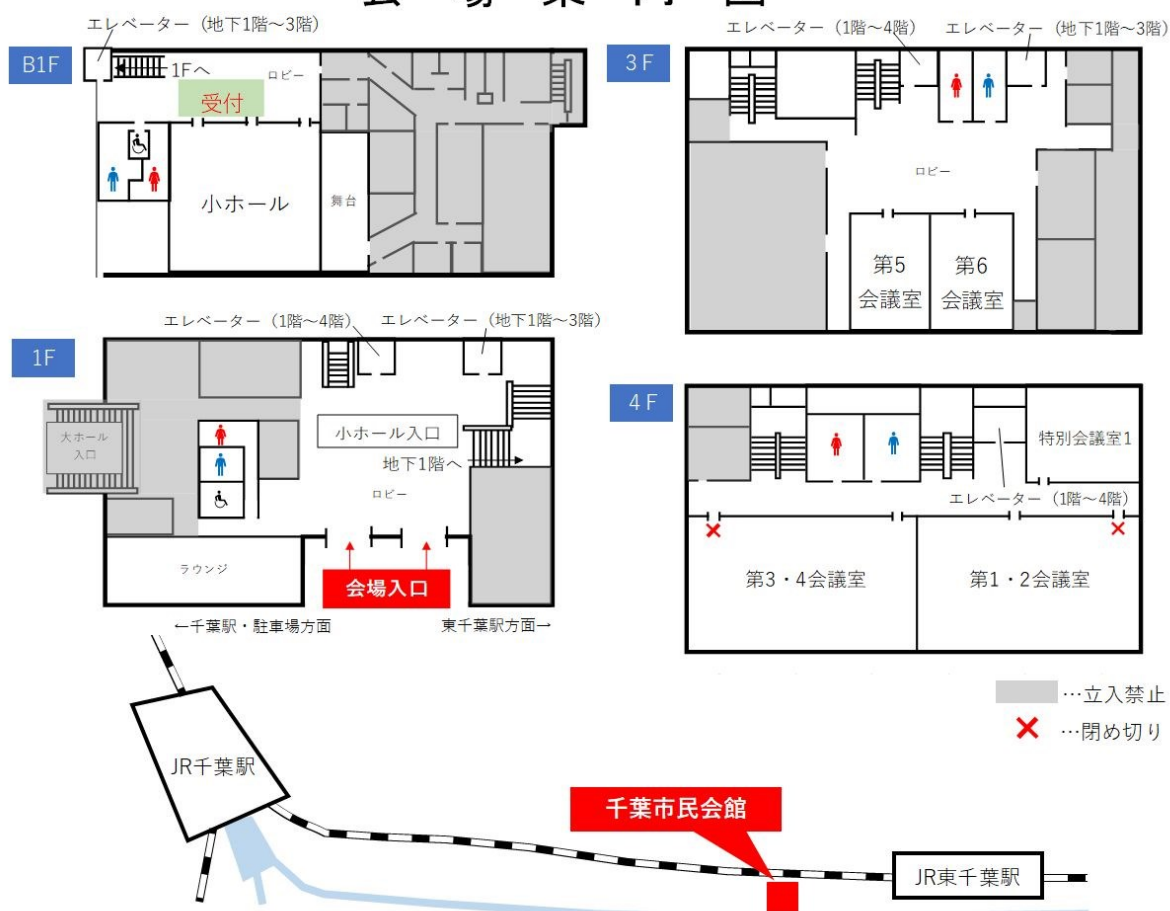
関東森林学会事務局

第 15 回関東森林学会大会のご案内

- 開催日 令和 7 (2025) 年 10 月 31 日 (金)
- 会場 千葉市民会館 (千葉県千葉市中央区要町 1-1)
アクセスの詳細: <https://www.f-cp.jp/shimin/access/>
※原則、電車・バス等の公共交通機関をご利用ください。
- 日程 受付 9:15~
研究発表 9:45~16:15
総会 12:00~13:00 (小ホール)
特別講演 13:15~14:00 (小ホール)
演題: 花粉症対策に関わって 30 年
演者: 福島 成樹 氏
(元・千葉県農林総合研究センター森林研究所)
- 発表会場と発表部門

会場	午前	午後
小ホール	経営	総会・特別講演・経営・樹病
第 1・2 会議室	動物・育種	育種・林政
第 3・4 会議室	風致・利用	利用・立地
第 5 会議室	造林	造林
第 6 会議室	防災	防災・特用
第 7 会議室	県スタッフ控	県スタッフ控
特別会議室 1	来賓・事務局控	来賓・事務局控

会場案内図



※各発表部門の時間割は、発表プログラムでご確認ください。

※お弁当等の手配はいたしません。

● 研究発表に関する注意点

※要旨集・プログラムを印刷・配布いたしません。各自、関東森林学会ウェブサイト (<http://www.kantoforest.jp/>) にアクセスの上、ご持参ください。

※研究発表の座長は輪番制です。次ページの発表プログラムでご確認ください。

※配付資料がある場合は、各自で必要数をご持参ください。

※Microsoft PowerPoint をインストールした PC (Windows10 以上の OS が搭載された機種を手配予定) を各会場に準備いたします。使用される方はファイルを格納した USB メモリーをご持参下さい。その際、ウィルス対策を万全によりしくお願いいたします。また、事前に動作確認をして頂くようお願いいたします。

※PowerPoint で投影される方は、午前の発表の方は 9:30 までに、午後の発表の方は 14:15 までに、各会場の PC にファイルをコピーしてください。ファイル名は、以下の例のようにお願いします：例： 経営 1_〇〇〇〇.ppt (〇〇〇〇は氏名)

※発表時間は 12 分、質疑応答は 2 分 30 秒の計 14 分 30 秒です。時間厳守でよろしくお願い致します。

● 発表プログラム

開始 時間	終了 時間	小ホール		第1・2会議室		第3・4会議室		第5会議室		第6会議室		第7会議 室	特別会議 室1
		講演者	座長	講演者	座長	講演者	座長	講演者	座長	講演者	座長		
9:45	10:00	経営1	経営6	動物1	動物7	風致1	風致6	造林1	造林8	防災1	防災8	県スタッフ 控	来賓・ 事務局控
10:00	10:15	経営2	経営1	動物2	動物1	風致2	風致1	造林2	造林1	防災2	防災1		
10:15	10:30	経営3	経営2	動物3	動物2	風致3	風致2	造林3	造林2	防災3	防災2		
10:30	10:45	経営4	経営3	動物4	動物3	風致4	風致3	造林4	造林3	防災4	防災3		
10:45	11:00	経営5	経営4	動物5	動物4	風致5	風致4	造林5	造林4	防災5	防災4		
11:00	11:15	経営6	経営5	動物6	動物5	風致6	風致5	造林6	造林5	防災6	防災5		
11:15	11:30			動物7	動物6	利用1	利用2	造林7	造林6	防災7	防災6		
11:30	11:45			育種1	育種4	利用2	利用1	造林8	造林7	防災8	防災7		
11:45	12:00												
12:00	12:15	総会											
12:15	12:30												
12:30	12:45												
12:45	13:00												
13:00	13:15												
13:15	13:30	特別 講演											
13:30	13:45												
13:45	14:00												
14:00	14:15												
14:15	14:30	経営7	経営10	育種2	育種1	利用3	利用6	造林9	造林16	防災9	防災12		
14:30	14:45	経営8	経営7	育種3	育種2	利用4	利用3	造林10	造林9	防災10	防災9		
14:45	15:00	経営9	経営8	育種4	育種3	利用5	利用4	造林11	造林10	防災11	防災10		
15:00	15:15	経営10	経営9	林政1	林政4	利用6	利用5	造林12	造林11	防災12	防災11		
15:15	15:30	樹病1	樹病3	林政2	林政1	立地1	立地2	造林13	造林12	特用林産1	特用林産4		
15:30	15:45	樹病2	樹病1	林政3	林政2	立地2	立地1	造林14	造林13	特用林産2	特用林産1		
15:45	16:00	樹病3	樹病2	林政4	林政3			造林15	造林14	特用林産3	特用林産2		
16:00	16:15							造林16	造林15	特用林産4	特用林産3		

● 口頭発表題目

分野	発表題名と所属
林政	
林政1	千葉県内教育関係団体に対するアンケート結果から見える森林環境教育活動の課題と支援策 寺嶋嘉春(日本森林インストラクター協会)・古賀琢也(千葉明德短大)
林政2	千葉県内の教育関係団体に対するアンケート結果における森林環境教育実施状況と幼稚園、保育園等への支援策 古賀琢也(千葉明德短期大)・寺嶋嘉春(日本森林インストラクター協会)
林政3	タイの脱炭素のための森林「ブーム」の現状、経緯、背景 一国内向けスタンダードT-VERプロジェクトを事例に一 倉島孝行(大東文化大)
林政4	埼玉県における市民活動を主体としたナラ枯れ対策の進め方 宮崎達也・中村葉子・森田厚・松山元昭(埼玉県寄居居林森林研)・松本剛史・北島博(森林総研)
風致	
風致1	山岳トイレの管理構造と主体機能 一丹沢山系を事例として一 茂木もも子(東京農大)・渡辺薫(元東京農大)・下嶋聖・町田怜子(東京農大)・愛甲哲也(北海道大)
風致2	農業高校の生徒が考える日本庭園の樹木とその配置 杉浦克明・金子里菜(日大)
風致3	植物方言を用いた文化的サービスの定量化に関する予備的研究 宮本麻子(森林総研)
風致4	ケヤキ街路樹の根上がりの実態 一神奈川県藤沢市湘南大庭地区を事例として一 横山 楓・園原和夏(日大)
風致5	アンケート調査に基づく「きのこ」の認識や理解の実態 松倉君予・浦本祈々叶・太田祐子・杉浦克明(日大)
風致6	SfMによる多時期のオルソ化された空中写真を用いた土地被覆の変遷 下嶋聖(東京農大)・中尾宏(元東京情報大)
経営	
経営1	標準地調査におけるプロット面積と標本数による推定精度の検証 千葉幸弘・藤原敏栄・黒木慶次郎・鈴木正勝・中村毅・沼田正俊(森林林業振興会)
経営2	福島県耶麻郡西会津町「ふるさと文化財の森」におけるキリの形質と蓄積 齋藤智治(東京農大)・星比呂志(会津里山森林資源育成研究会)・大竹由起(福島県林研セ)・ 吉野聡・佐藤孝吉(東京農大)
経営3	秋田地方のスギ林における枝下高・樹冠長の推移 西園朋広(森林総研)・松浦俊也(森林総研東北)・田中邦宏(森林総研関西)・小谷英司(森林総研)
経営4	民有スギ人工林の本数減少曲線 細田和男・西園朋広・北原文章(森林総研)・笹川裕史・古田朝子(日本森林技術協会)
経営5	LiDARメトリクスによるヒノキ林の林冠高と材積の推定 齋藤英樹・西園朋広・鷹尾元・高橋正義・古家直行・北原文章(森林総研)・志水克人(森林総研四 国)・鄭峻介・小幡進午(森林総研北海道)
経営6	東京都における多摩産材利用拡大フェア来場者の特徴 佐藤孝吉(東京農大)
経営7	農大木曽箸の製作過程における手仕事の位置づけ 吉岡賢史朗・茂木もも子・佐藤孝吉(東京農大)
経営8	過去の空中写真に基づく三次元モデルの作成：1991年の能登地域とした事例 田中真哉・小谷英司(森林総研)
経営9	航空レーザ計測による落葉広葉樹林の林分パラメータの広域推定手法の開発 小谷英司・田中真哉・北原文章・西園朋広(森林総研)
経営10	Sentinel-2画像を用いた2025年春の林野火災における被害抽出とその特徴 高橋正義(森林総研)・坪田幸徳(愛媛県林研セ)

分野	発表題名と所属
造林	
造林1	挿しつけ2年目ヤナギ苗における幹数・形質を用いたバイオマス推定精度の検討 原山尚徳・飛田博順(森林総研)
造林2	シラビソ人工林帯状伐採地に植栽された落葉広葉樹による針広混交林化 長池卓男(山梨県森林総研)
造林3	マレー半島における植栽方法の異なる郷土樹種の30年後の成長と生残特性 田中憲蔵・諏訪鍊平・Mohammad Shamim Hasan MANDAL(国際農研)・大谷達也(森林総研)・Zamah Shari NUR HAJAR(FRIM)
造林4	スギ造林地のUAV薬剤散布における散布薬量別の除草効果 飯田玲奈・山田勝也(群馬林試)
造林5	養分状態のよいスギコンテナ苗に対する秋施肥が耐凍性に及ぼす影響 飛田博順・原山尚徳・香山雅純・齋藤隆美(森林総研)
造林6	外生菌根菌を接種したアカマツ実生が乾燥から受ける影響及びバイオマス量の変化 草川涼音・田中恵(東京農大)
造林7	コンテナ直接多粒播種法におけるスギ実生の適切な間引き時期の検討 飯泉佳世(埼玉県寄居林森林研)
造林8	スギ実生コンテナ苗に係る緩効性肥料の効率的な施肥位置の検討 富田衣里(茨城県林技セ)・阿部森也(茨城県県北農林事務所)
造林9	<i>Eucalyptus saligna</i> の生育調査結果 尾上竜一・新見銀次・福江陽子(王子ホールディングス株式会社)
造林10	スギ植栽地における下刈り手法による作業コストの違いについて 井嶋陸・清水達哉(新潟県森林研)
造林11	長野県須坂市のスギ林におけるALS樹高と地上測定樹高の比較 壁谷大介・荒木眞岳・八木橋勉・飛田博順・韓慶民・重永英年(森林総研)・小林慧人・北川涼(森林総研関西)・大矢信次郎(長野県林セ)
造林12	スギ特定母樹の自然交配種子から生産された苗木(特定苗木)の山林における樹高成長について 園部ひかる(茨城県林技セ)・前川直人(茨城県県北農林)・宇都木景子・鈴木孝典(茨城県林技セ)
造林13	静岡県富士市のヒノキ植林地にみられる幹の分岐状況 上原巖(東京農業大)
造林14	スギ人工林適地に植栽した溪畔種シオジの成長調査 安藤博之・平尾翔太・仲田昭一(関東森林管理局)・太田敬之(森林総研)
造林15	簡易なニホンジカ捕獲技術実証試験の近況報告 松山元昭(埼玉県寄居林森林研)
造林16	つる植物およびササ類に被圧された獣害防止ネットの除草管理技術 山田勝也(群馬林試)
育種	
育種1	Mスターコンテナ苗を台木としたスギ・ヒノキのつぎ木増殖の検討 大平峰子・黒澤陽子・増山真美・久保田権・佐久董(森林総研林育セ九州)・篠崎夕子(森林総研林育セ)・阿部楓子・坂本庄生(森林総研林育セ)
育種2	種子生産性向上のための着花特性に基づく少花粉スギ系統の分類 相馬航輔(茨城県林技セ)・阿部森也(茨城県県北農林事務所)
育種3	スギ花粉、イヌマキ生殖細胞からの形態形成 細井佳久(森林総研)・大宮泰徳(森林総研林育セ)
育種4	埼玉県のスギミニチュア採種園におけるスギ雄花害虫ケブカカスミカメの発生消長 室紀行(埼玉県寄居林森林研)

分野	発表題名と所属
立地	
立地1	森林土壌インベントリデータを用いた根株の形状と分解度分布の可視化：スギ・ヒノキを中心とした初期解析 川西あゆみ(森林総研)・酒井佳美(森林総研九州)・石塚成宏・相澤州平・鳥山淳平・今矢明宏(森林総研)
立地2	福島県に生育する山菜における放射性セシウム濃度の経年変化 香山雅純(森林総研)・安部 久(国際農研)・清野嘉之(元森林総研)
防災	
防災1	アンデス－アマゾンにおける森林土壌の通気性 玉井幸治(森林総研)・花村美保(日本森技協)・Victor Peña・Alexis Nicolas Ibanez Blancas(国立ラ・モリーナ農科大学)・前田浩伸・山下達己(株式会社シーテック)・落合博貴(日本森技協)
防災2	台風による降雨と潮位変動が河川水位に及ぼす影響 - 2019年台風15号および19号における利根川水系綾瀬川の水位変動を事例として - 本田尚正・高橋里歩(東京農大)
防災3	釜淵森林理水試験地における皆伐・再造林から約50年後までの旬流出量の変化 阿部俊夫・久保田多余子(森林総研)・野口正二(森林総研東北)・細田育広(森林総研関西)
防災4	温暖多雪域の山地森林流域における湧水の水質 瀧澤英紀・森島尚也・伊藤大輔・稲山堅信・小坂泉(日大)
防災5	1910年代に日本各地で観測された林内外降水量データの紹介 久保田多余子(森林総研)
防災6	カラマツ人工林における樹幹近傍を含めた樹冠通過雨の空間分布 佐藤貴紀・堀悠生・太田原芽久美・高山遼太郎・橘隆一(東京農大)
防災7	粒子法による土石流シミュレーションにおける河床粗度の評価手法 鈴木拓郎(森林総研)・堀田紀文(東大)
防災8	2024年能登災害でみられた地すべりの長距離運動について 岡田康彦(森林総研)・王功輝(京都大)・古谷元(富山県立大)
防災9	噴火後の火山灰降灰を想定した火山灰変質過程の分析 高倉未央・白木克繁(農工大)
防災10	灌漑が暖温帯に植栽されたブナ個葉の水利用効率に与える影響 小坂泉・明光美月・池田優太・鎌田峻輔・敷根巧巳・高梨真紀登・瀧澤英紀(日大)
防災11	多雪地山地に生育する灌木の力学的特性 宮下彩奈(森林総研)・小田憲一(日大)・松元高峰(新潟大)・勝島隆史(森林総研十日町)・井道裕史(森林総研)
防災12	Throughfall Redistribution Processes Around Tree Boles in Different Forest Plots MAHPARA SHAHZADI(東京農工大)
利用	
利用1	日本全国における山岳地域の道路規格を考慮した未利用材利用可能量推計 新田穂ノ花・山田真輝・有賀一広・藤井絢弓・松岡佑典(宇都宮大)・斎藤仁志(岩手大)・酒井明香(北海道総研)・白澤紘明(森林総研)・鈴木保志(高知大)
利用2	大分県の皆伐作業における欧州型CTLの生産性分析 高橋日菜子・小嶋恵美・有賀一広・Steffen Lahrsen(宇都宮大)
利用3	ラジコン地拵機による林地残材、伐根処理による作業地平滑化 大地純平(山梨県森林研)
利用4	UAV-SfMと内挿による地形モデルを用いた森林計測の精度検証 亀山翔平(東京農大)
利用5	山梨県富士川上流森林計画区における未利用材供給ポテンシャルと経済的供給可能量の推定 林大祐・吉岡拓如(東大)
利用6	高校生を対象としたストレス解消法としての森林散策 斎藤万桜(東京農大)・上原巖(東京農大)

分野	発表題名と所属
動物	
動物1	捕食寄生性昆虫サビマダラオオホソカタムシ飼育個体における寿命と産卵の経年変化 浦野忠久(森林総研)
動物2	千葉と神奈川に生息するニホンイノシシの自然免疫TLR2遺伝的多様性の比較 高日陽里・溝口康(明治大)
動物3	関東近辺に生息するニホンジカのミトコンドリアDNA内Dループ領域タンデムリピートの多型解析 稲穂ひより(明治大)・久保田将之・新井一司(東京農総研)・溝口康(明治大)
動物4	ニホンジカMHCクラスII DQBにおける遺伝的多様性の地域間比較 湧本藍花・杉山瑠希亜(明治大)・久保田将之・新井一司(東京農総研)・溝口康(明治大)
動物5	急斜面地においてタヌキなどに噛み切られた化学繊維製シカ柵への対策 新井一司(東京農総研)・三田村英亮(東京農総研・現 東京都農林水産振興財団 森の事業課) ・亀山恵,桶川秀実(東京都森林事務所)
動物6	フタマタナガマドキノコバエの産卵数および幼虫の齢数 北島博(森林総研)
動物7	スズメバチ類から記録された昆虫病原菌類について 佐藤大樹(森林総研)
樹病	
樹病1	日本大学藤沢演習林と桜山公園における'冬桜'健全若齡枝の4月の内生菌の比較 秋田梨湖(日大)・杉山陽紀(元日大)・松倉君予・太田祐子(日大)
樹病2	木片中に生育する <i>Pyrrhoderma noxium</i> の低温耐性 小川将吾・佐橋憲生(日大)・秋庭満輝(森林総研)・松倉君予・太田祐子(日大)
樹病3	群馬県藤岡市桜山公園の'冬桜'の天然記念物指定区域土壌からのネコブセンチュウ 今川遥(日大)・秋庭満輝(森林総研)・秋田梨湖・松倉君予・小野里光(日大)・ 西山正大・和田博幸(日本花の会)・太田裕子(日大)
特用林産	
特用1	漆の安定供給に向けた茨城県の山林におけるウルシ植栽試験 栗原敬博・小林久泰・市村よし子(茨城県林技セ)・関根直樹(株式会社東京電機)
特用2	ニオウシメジ施設栽培における発生時期の調節事例 小林久泰(茨城県林技セ)
特用3	廃培地混合割合に対するブナシメジ・ヒラタケ菌糸伸長調査 中村弘一・栗原敬博・小林久泰(茨城県林技セ)
特用4	ナメコ菌床栽培における菌搔き時の注水の省略および芽出し管理の違いが子実体発生に及ぼす影響 清水達哉(新潟県森林研)

● 「関東森林研究」第 77 巻への投稿論文原稿の募集

関東森林研究は原則として大会において発表された論文を対象に編集します（編集委員会運営規則第 3 条）。第 15 回関東森林学会大会で研究発表される方は、発表内容を論文または速報として投稿することができます。投稿を希望される方は、投稿原稿等の必要書類を大会ページから電子投稿して下さい。投稿原稿の提出期限は 11 月 14 日（金） とします（注記）。

（１） 原稿の電子投稿

提出物：

①論文原稿：電子ファイル 1 部（PDF）または、速報原稿：電子ファイル 1 部（PDF）

②英文原稿の場合、英文校閲済の証明書

提出先：<http://www.kantoforest.jp/>

投稿に関する問い合わせ：

森林総合研究所

関東森林学会 編集委員会（宇都木玄）

TEL：029-829-8213

E-mail：utsugi_hajime830@ffpri.go.jp

（２）原稿作成上の注意

原稿作成に際しては、関東森林学会ホームページ（<http://www.kantoforest.jp/>）の投稿規定および最新の執筆要領にしたがい、提出前に最新の投稿チェック表で十分に確認した上で提出して下さい。投稿連絡表の提出は不要です。投稿者情報を Web 上に記入して下さい。審査は「関東森林研究」投稿原稿審査要領にしたがって行います。投稿規定、執筆要領を満たしていない原稿は受け付けませんのでご注意下さい。また、原稿作成においては上記ホームページ上に掲載している、最新の原稿テンプレート（第 77 巻用）を必ず使用して下さい。ご協力のほどよろしくお願い致します。

（３）原稿審査

投稿規定、執筆要領を満たしていることが確認された原稿について投稿を受付け、担当の審査員を決定して審査を開始します。審査の結果、修正を要すると判断された場合は、著者に修正稿の提出を求めます。提出期限までに修正稿が提出されない場合は、投稿を取り下げたものとみなします。なお、第 77 巻は 2026 年 3 月末に第 1 号、7 月末に第 2 号を印刷発行する予定です。

事務局連絡

● 関東森林学会 第15期（2025年度）第1回幹事会議事録

【日時】2025年6月10日（火）13:30～14:45

【場所】Zoomによるオンライン会議

【出席】（順不同、敬称略）

（都県幹事）新井（東京）、亀井（栃木）、長池（山梨）、鈴木（茨城）、宮崎（埼玉）、笹川（新潟）、齋藤（神奈川）、宇川（千葉）

（国機関幹事）佐藤（森林総研、本所）、田村（森林総研、林木育種）

（大学幹事）瀧澤（日本大）、逢沢（宇都宮大）、田中（東京農業大）、吉岡（東京大）

（学会事務局）瀧澤（会長）、佐藤（副会長）、松倉（会計、日本大）、宇川（大会、千葉）、小坂（総務、日本大）、宇都木（編集、森林総研）

【欠席者】松本（群馬）、林（監査、宇都宮大）、白木（HP、東京農工大）

【書記】小坂（総務、日本大）

【事前配布資料】

資料-1 2025年度（第15期）役員および機関幹事

資料-2 第14期（2024年度）会計決算報告書

資料-3 2024年度学会大会（於：茨城県）決算報告書

資料-4 第15期（2025年度）予算計画書

資料-5 2026年度以降の体制（会長、副会長、総務・会計、編集、行事）

資料-6 2025年度表彰

資料-7 学会刊行物

資料-8 日本森林学会大会の開催機関の推薦方法

【議事】

1. 会則第9条に基づく第15期（2025年度）会長等役員の選出（総務担当理事、資料1）

- ・会長 瀧澤英紀（日本大学）
- ・副会長 佐藤保（森林総合研究所）
- ・総務担当理事 小坂泉（日本大学）
- ・会計担当理事 松倉君予（日本大学）
- ・行事担当理事 宇川裕一（千葉県農林総合研究センター）
- ・編集担当理事 宇都木玄（森林総合研究所）
- ・総務担当理事補佐（HP担当） 白木克繁（東京農工大学）
- ・監査 林宇一（宇都宮大学）
- ・幹事の交代（栃木県、森林総合研究所、宇都宮大学）

事務局の提案の通り、役員と幹事が承認された。

2. 第 14 期（2024 年度）会計決算報告（会計担当理事，資料 2；本ニュース p.12）

会計担当理事より説明があり、提案の通り承認された。但し、先日実施した役員会で大会運営費が大会決算額と異なることが判明し、修正して再度会計監査を受けることとした。

3. 2024 年度学会大会（於：茨城県）決算報告（前行事担当理事，資料 3）

前行事担当理事より説明があり、提案の通り承認された。

4. 第 15 期（2025 年度）予算計画（案）（会計担当理事，資料 4；本ニュース p.13）

会計担当理事より説明があり、西暦に修正、費目の変更および削除、摘要欄の表記に関して審議した結果、提案の通り承認された。今後については、収支バランスを鑑みて、会費の減額、学会 HP の更新、編集サポートなどを検討することとした。

5. 2025 年度学会大会（於：千葉県）開催方針（行事担当理事，資料なし）

行事担当理事から今年度大会の準備状況について以下の説明があり、提案の通り準備を進めることが承認された。

- ・開催日程と会場：10 月 31 日（金）・千葉市民会館（千葉市）
- ・開催方法：対面のみ
- ・特別講演：福島成樹 氏（元・千葉県農林総合研究センター森林研究所）テーマ未定
- ・現時点で参加費徴収はない予定

但し、人員不足のため、大会運営費の範囲内で学会発表などに詳しい方をアルバイト（日当、交通費込）で運営サポートしてもらうことについて、承認された（但し、大会決算報告書に要記載）。

6. 第 2 回幹事会の開催日程（総務担当理事）

大会 2 週間前の 10 月 17 日（金）15：00～16：30 に Zoom にて開催することが承認された。

7. 2026 年度以降の体制（会長，副会長，総務・会計，編集，行事）について（総務担当理事，資料 5）

会長・総務・会計、副会長・編集

- ・2025～2026 年度（日本大学、森林総研）
- ・2027～2028 年度（森林総研、東京大学）（提案）
- ・2029～2030 年度（東京大学、東京農工大学）（予定）

学会大会会場担当

- ・2026 年度埼玉県（提案）、2027 年度神奈川県（提案）、2028 年度栃木県（予定）

以上の事務局の提案の通り、承認された。但し、2027～2028 年度の編集作業を東京大学（会員数：2 名）が担うことは、現実的に難しいことが判明したが、編集作業の負担減を目指し、分野ごとの査読者リストの作成、業者（例えば、サイエンスウェブ（株）など）に委託することも視野に入れながら、今後も審議していくこととした。

8. 2025 年度表彰（副会長，資料 6）

表彰担当の副会長より説明があり、提案の通り、承認された。

9. 学会刊行物について（総務担当理事、編集担当理事，資料 7）

- ・学会ニュース、学会大会プログラムは冊子印刷を廃止し、HP のみで公開した。
 - ・論文集「関東森林研究」76 巻はオンライン発行を完了
 - ・学会ニュース・プログラムについては、今年度も HP のみで公開することが承認された。
- また、編集担当理事から 76 巻の発行完了について説明があり、問題なくオンライン発行できたことが報告された。今年度も 77 巻をオンライン発行することが承認された。

10. 日本森林学会大会の開催機関の推薦方法（総務担当理事，資料 8）

これまで大会開催を担ってきた関東地区の地方大学は定員削減、学部改組等により、所属教員数が減少の一途を辿っており、単独開催が極めて厳しい状況になってきている。宇都宮大学の林幹事からいただいた以下の案について意見交換したい。

【提案】最大会員数となる森林総研本所（育種センター含む）のローテーション加入

具体案 1：森林総研本所単独開催＋中大規模会員数校によるローテーション

具体案 2：（森林総研本所＋小規模会員数校）＋中大規模会員数校によるローテーション
ただし、具体案 2 の場合、

- 1) 大会運営委員長は、小規模校が希望しない限り、原則森林総研が担う
 - 2) 森林総研本所の担う大会運営委員数は、小規模校の要望に基づく
 - 3) 開催校の選定は、上記にあるように既存のローテーションを変更しうるものなので、各旧地区学会からの推薦方式ではなく、学会本体事務局による直接依頼方式とする
- 以上三つを付帯条件とすることで、これまでローテーションに入っていない小規模校にも開催担当を依頼していく。

前総務担当理事より提案の背景および具体案についての説明があった。今後の日本森林学会大会の開催地として、筑波大学（会場はつくば国際会議場および筑波大学）（2026 年 3 月）、琉球大学（2027 年 3 月）、関西地区（2028 年 3 月）、関東地区（2029 年 3 月）が予定されている。毎年 12 月の日本森林学会理事会では、会長が当学会の活動を報告することが慣例となっている。この現況を鑑みて、副会長および編集担当理事（森林総合研究所所属）から、大会開催に関する協力を惜しまない考えであるとしながらも、本件については初見であるため、まずは所内で意見を徴集するとともに（提示された具体案以外に妙案があるか検討しながら）、筑波大学主催・森林総研協力で実施予定の第 137 回日本森林学会大会（2026 年 3 月）の運営状況を踏まえながら、今後も引き続き協議していくこととした。

第14期会計決算報告書

第14期（令和6年4月1日～令和7年3月31日）

収入の部

	費目	第14期予算	決算	差額	摘要
1	前年度繰越金	6,219,369	6,219,369	0	
2	会費	920,000	870,000	-50,000	行政機関会費30,000円を含む
3	賛助会費	0	0	0	
4	雑収入	2,000	3,229	1,229	利息のみ
5	協賛金	0	100,000	100,000	日本森林学会, 日本森林技術協会
6	返還金	0	0		
	合計	7,141,369	7,192,598	51,229	

支出の部

	費目	第14期予算	決算	差額	摘要
1	ニュースレター印刷	0	0	0	メール配信
2	論文集費	0	0	0	オンライン発行
3	大会運営	500,000	369,716	-130,284	第14回関東森林学会（学会会計宛送金手数料含む）
4	編集費	30,000	0	-30,000	
5	旅費幹事会	0	0	0	オンライン開催
6	会議費	0	0	0	オンライン開催
7	通信費	50,000	1,140	-48,860	
8	消耗品	50,000	0	-50,000	
9	表彰費	100,000	24,650	-75,350	表彰状及び副賞（図書カード）
10	手数料	10,000	1,100	-8,900	
11	謝金	10,000	0	-10,000	
12	HP管理費	50,000	0	-50,000	
13	予備費	6,341,369	0	-6,341,369	
14	繰越金	0	6,795,992	6,795,992	昨年度比+576,623円
15	合計	7,141,369	7,192,598	0	

現財産

総収入	総支出	差額
7,192,598	396,606	6,795,992

財産内訳

栃木銀行	6,784,823
現金	11,169
合計	6,795,992

上記の通り学会運営の収支決算を報告いたします。

令和 7 年 6 月 13 日 事務局（会計担当理事）

林 宇一



監査の結果、上記の通り相違ありません。

令和 7 年 6 月 15 日 監査

田中 恵



第 15 期会計予算案

第 15 期（令和 7 年 4 月 1 日～令和 8 年 3 月 31 日）

収入の部

	費目	第14期予算	第15期予算	差額	摘要
1	前年度繰越金	6,219,369	6,795,992		
2	会費	920,000	920,000	0	2024年度農工大7名分（28,000円）を含む
3	賛助会費	0	0	0	
4	雑収入	2,000	2,000	0	利息、バックナンバー販売
5	協賛金	-	100,000	100,000	大会への協賛金
	合計	7,141,369	7,817,992		

支出の部

	費目	第14期予算	第15期予算	差額	摘要
1	大会運営費	500,000	500,000	0	第15回関東森林学会大会
2	編集費	30,000	30,000	0	
3	旅費	0	0	0	
4	会議費	0	0	0	
5	通信費	50,000	50,000	0	文書発送等
6	消耗品費	50,000	50,000	0	
7	表彰費	100,000	100,000	0	第15期表彰分
8	手数料	10,000	10,000	0	
9	謝金	10,000	10,000	0	
10	HP管理費	50,000	50,000	0	2024年度分（10,582円）を含む
11	予備費	6,341,369	7,017,992	676,623	
	合計	7,141,369	7,817,992	676,623	

関東森林学会第 15 期事務局

学会長：瀧澤英紀（日本大学）

学会副会長：佐藤保（森林総合研究所）

総務担当理事：小坂泉（日本大学）

総務担当理事補佐（HP 担当） 白木克繁（東京農工大学）

会計担当理事：松倉君予（日本大学）

行事担当理事：宇川裕一（千葉県農林総合研究センター）

編集担当理事：宇都木玄（森林総合研究所）

監査：林宇一（宇都宮大学）

連絡先 〒252-0880

神奈川県藤沢市亀井野 1866

日本大学生物資源科学部森林学科（小坂泉）

TEL：0466-84-3675 E-mail：kosaka.izumi [あっと] nihon-u.ac.jp

振込口座 神奈川銀行 六会支店（店番号 237）

普通預金口座 5023833

口座名義 関東森林学会事務局 会長 瀧澤英紀（カントウシンリンガツカイジムキョク カイチ
ヨウ タキザワヒデキ）

入退会の連絡は、会計担当の松倉君予（matsukura.kimiyo [あっと] nihon-u.ac.jp）にお願いします。